

登山時報



AUTUMN
No.585

一押し of 紅葉

野生鳥獣目撃情報／平和と登山全国集会



日本勤労者山岳連盟

登山時報

2024

秋
号

No.585

〈表紙の写真〉福島県
「思い出の安達太良山」矢崎文子（HC）
はりま／兵庫県

CONTENTS

- | | | |
|----|------------------------|-------|
| 01 | 巻頭言 | 川嶋高志 |
| 02 | 一押しの紅葉 | |
| | ・紅葉の大パノラマ 安達太良山 | 鶴田幸一 |
| | ・錦秋の栗駒山へ | 栗野紀子 |
| | ・猪臥山 紅葉の唐松林に行く | 三輪菜穂子 |
| 05 | 野生鳥獣目撃情報 | |
| 08 | 全国遭難対策担当者会議 | 石川昌 |
| 12 | JWAF フェス in みずがき | 三瓶健 |
| 14 | アジア山岳連盟創立 30 周年記念事業と総会 | 大和田英子 |
| 15 | 2025 年 JWAF カレンダー申込案内 | |
| 16 | 原水爆禁止国民平和大行進 | 久保典子 |
| 18 | 平和と登山全国集会 | 久保典子 |
| 22 | アポイ岳を目指して | 大西清見 |
| 26 | 登山に役立つ気象のお話 | 野尻英一 |
| 28 | 遭難の教訓 備忘録⑦『海外』 | 川嶋高志 |
| 32 | スティーブのノースウェールズ庭だより | 大和田英子 |
| 34 | 山の自由帳 | 篠塚優 |
| 35 | 子づれ山さんぽ | 武井真理 |
| 36 | マンガ フウフウハアハア | 村松孝一 |

秋の収穫

日本勤労者山岳連盟 理事長 川嶋高志

今年の夏は暑かった。おまけに台風や大雨で長期山行ができなかった。9月に入り、何とか若手会員2名の希望していた北岳バットレス第4尾根へ行くことができた。国内第2の高峰山頂へのクライミングは最高に気持ちがいい。私にとっては2009年以来15年ぶり、44年前に初めて登ったときは登山靴だった。今回も若手にリードを任せたのでクライミングシューズは使わずに済んだ。出発予定の3時には雨が降っていたので、停滞か？と思ったが夜明けと共に晴れてきたので7時に出発。15時半には白根御池に帰ってくることができたが、若者についていくのはハードだった。

1980年に登ったときはマッチ箱のコルへ懸垂した。翌年、コルが大崩落して死亡事故が発生した。直近で登った翌2010年も最終ピッチのリッジが大崩落し死亡事故となった。今回も城塞ハングが崩れないか？ドキドキだった。白根御池小屋では翌日登攀予定の兵庫労山、副理事長と事務局長一行に会ったので、情報を伝えた。来年、大崩壊が起きないことを祈りたい。もう私がここを登ることは無いだろう。

話は変わるが、今年は栗の当たり年らしい。山梨県北杜市甲斐大泉の山荘では庭や道路に栗が散乱し、弾けて美味しそう

な実が散らばっていた。近所の甲斐犬は散歩の際に肉球が傷ついたらしく、足を引きずっていた。30年以上前から住んでいる人から「今まででは無かったことだ」と聞いた。栗は塩水に浸した後に、茹でて冷ましてから1か月ほど冷蔵庫で寝かせておくと美味しくなるとのこと。冷蔵庫に入りきらないくらい拾ってきたが、1日経って食べてみると十分に美味しい。

しかし、喜んでばかりはいられない。猛暑と大雨がもたらした収穫なのか、栗の木が「今年が最後ですよ」と訴えているような気もする。山岳地帯での岩場の崩壊や気候変動による植生の変化は登山者でなければ分かりづらい。地震があり火山があり台風が来る日本では、登山者が自らの安全を確保しつつ、自然の変化を伝えていこう。



左中ほどBCの白根御池からはマッチ箱が良く見える。いつまでマッチ箱があるのだろうか？



一押しの紅葉

編集委員会では、秋号の写真特集として「紅葉」の写真を掲載することになりました。早速、全国連盟に送られてきた各会・クラブからの会報、機関紙（は昨年 2023 年発行のモノ）をあたってみました。紹介したい記事・写真が 9 会報ありましたので、寄稿をお願いしたところ、次の会・クラブから協力いただきましたので紹介します。



紅葉の大パノラマ 安達太良山

福島県・相馬山歩会 とみた 鶴田幸一

月並みなタイトルだが、夕方放映された TV のお天気コーナーで、どの局からも「安達太良山の紅葉は今が見ごろ、最高潮」と言われると「これは行くしかないべ」と。丁度仕事もない平日で天気予報も好天を告げている。10 月 19 日がピタリとハマった山行だった。

（「相馬さんぽ」第 323 号 2023 年 12 月号より）

山一面の紅葉には1週間早かったか！



地は草もみじ、天は青い空に白い雲
遠くは青い森の山



錦秋の栗駒山へ ランプの宿 湯浜コースから

東京都・墨田山の会 栗野紀子

当初の予定より1週間遅らせて10月7日～8日の日程を組んだが、それでもまだ紅葉には早かったようだ。パンフレットなどにある“山一面の紅葉”には程遠かった。でも草紅葉もあり、真っ赤なドウダンツツジやイタヤカエデの黄色も良かった。何よりも天気にも恵まれたのが最高のご馳走だった。
(「すみだ」No.389 2023年11月号より)

草もみじの木道で一服、そして現在地を確認



いぶしやま
猪臥山・岐阜県
紅葉の唐松林に行く

石川県・金沢ハイキングクラブ
三輪菜穂子

残雪期に登ることの多い猪臥山ですが、カラマツが多いので紅葉はきっと綺麗だろうと思い、クラブ山行としました。

実際のところ、カラマツの黄色に加え、赤く色づく木々も多くて錦織りなす景色を楽しみました。

猪臥山の山頂からは北アルプスも眺めることができるだけでなく、途中で白山が美しい姿を現してくれます。落ち葉が積もった登山道は足に優しく快適なコースですので、秋の猪臥山を是非登りに来てください。

紅葉の下山道の綺麗さに思わずパチリ

野生鳥獣目撃情報



皆さんは労山ホームページに「ライチョウ目撃情報」が掲載されているのをご存じですか。環境省からの呼びかけにより 2007 年から開始されて既に 17 年が経過しました。このサイトは「ここでライチョウを見た！」という目撃情報を、ライチョウ保護につなげる場です。ライチョウは昨今、気候変動や高山での猿や鹿の生息環境の変化を受けて、絶滅の危機に晒されています。

登山者からの目撃情報を収集して、ライチョウの暮らす高山環境を知ることが大切だという「環境省・生物多様性センター」の趣旨に賛同して行っている活動です。このことは「労山自然保護憲章」が掲げる“多面的な自然保護活動や地球環境問題”の取組とも合致しています。現在、ライチョウの目撃情報は環境省の目撃情報カードのみならず、YAMAP によるライチョウモニター、長野県のアプリ「ライポス」等からも情報収集を行っています。

本号では、今年寄せられたライチョウの目撃情報を紹介します。また、私たちは山に入っただけでなく、ほかの動物などにも遭遇しています。その中からオヤツと思うような鳥獣をご覧にいます。

復活ペースよく、ヒナの数が多いのがわかります

ライチョウ目撃情報その1 中央アルプス・檜尾岳

去る 6 月 29 日の目撃情報（2023 年）として当 HP に掲載した「中央アルプス・檜尾岳」の目撃情報についての続報です。中央アルプス・檜尾岳で目撃の写真は、ヒナの数が多いことと、中央アルプスでライチョウ復活ペースのすばいことを大阪労山で大宣伝中です。NHK サイエンスでライチョウの番組視聴も宣伝していることを報告します。

檜尾岳は、主峰、木曽駒ヶ岳と中部の重鎮、空木岳とのちょうど中間に位置しています。山頂近くの伊那側に避難小屋があり、中御所谷と太田切川本谷に挟まれた桧尾根に登山道があるため人気の山です。提供者・佐藤有香（世田谷山友会／東京）

ライチョウ目撃情報その2 北アルプス 白馬岳

5月1～3日のゴールデンウィーク、白馬岳に行ってみりました。そこでホシガラス、雷鳥を目撃しました。なお、岩ひばりなど多数目撃しましたが撮影はできませんでした。

提供者・佐藤俊明（雑木の会／大阪）



ライチョウの雄（小蓮華～三国境間・2700 m付近、07時30分頃）



ライチョウ
（三国境～小蓮華間・2700 m付近、5月2日12時20分頃）



ホシガラス
（天狗原・2200 m付近、5月1日12時00分頃）



ライチョウ（白馬ピーク・2900 m付近、5月2日9時30分頃）

ライチョウ以外の目撃情報を紹介

撮影者：①川嶋高志（神楽坂アルパインクラブ／東京）
 ②山田宏美（野木山想会／栃木）
 ③飯野徳子（山人クラブ／栃木）



オコジョ
 （北アルプス・水晶岳、2022年8月29日 ①）



マーモット立ち姿（カナディアンロッキー、2024年7月15日 ②）



ニホンザル
 （上高地、2022年5月8日 ①）



ニホンリス
 （北八ヶ岳・しらびそ小屋、2022年5月29日 ①）



キタキツネ
 （北海道・十勝岳、2021年9月8日 ①）



ニホンカモシカ
 （北八ヶ岳・稲子の湯、2022年5月29日 ①）



ナキウサギ
 （カナディアンロッキー、2024年7月16日 ③）



ナキウサギ塩舐め。昼食の時登山者の洋服を舐めている姿。汗の塩分を摂っているのでは？全然逃げなかった。（カナディアンロッキー、2024年7月16日 ③）



全国遭難対策担当者会議 報告

全国遭難対策担当者会議

期日：2024年7月6日～7日

場所：日本勤労者山岳連盟

参加：地方連盟 33 名、全国連盟 6 名、講演者・報告者 2 名（計 41 名）

遭難対策部長 石川昌

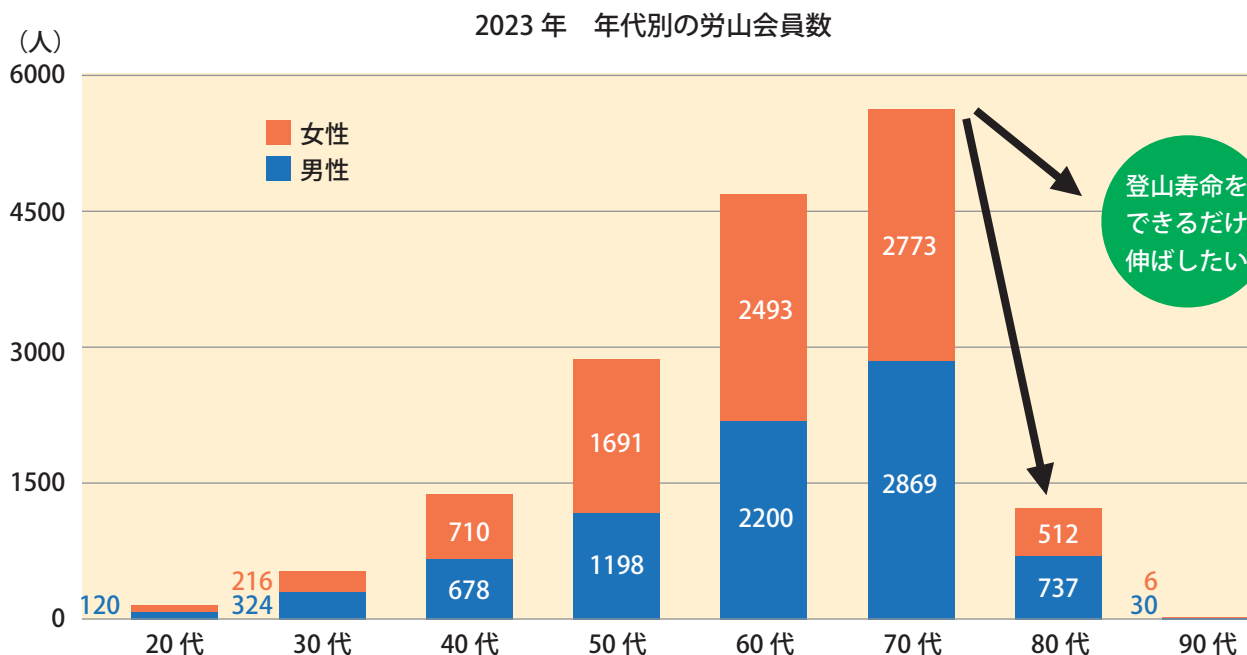
今回の担当者会議は、3 点の課題を議論するため開催された。1. 労山内で多発している転倒事故について運動生理学の視点から学ぶこと、2. 警察への登山計画書提出と各会での対応（コンパスの活用方法）、3. 2023 年に各地で発生した重大事故の教訓と地方連盟における事故防止対策、である。

2023 年の事故者数が過去最多となり、転倒事故が 5 割を超える現状に対し、各地の遭難事故対策の担当者は対策に頭を抱えていると思う。そこで、会議 1 日目は、運動生理学から見た合理的な登山術を提唱する鹿屋体育大学名

誉教授山本正嘉氏（労山顧問）に具体的な登山術を伺った。

山を快適かつ安全に歩くためには、次の 2 点が必要だ。第 1 に、登山がどんな特徴を持つ運動かを知ること。第 2 に、自分の身体がどんな仕組みで動くのかを知ること。これらの知識を活用すれば、山で上手に身体を動かせるようになる。加えて普段から適切なトレーニングをすれば、さらに効果が高まるとのこと。

安全・快適・健康的な生涯登山を実現するための 3 つのポイントは、①歩き方を見直し、歩くペースで上り下りの動き方を考える。②ト



レーニング方法を見直し、軽登山（半日登山）を励行する。③登山者の体力で最大の弱点は筋力不足。筋力の強化で様々な身体トラブルを抑制する。

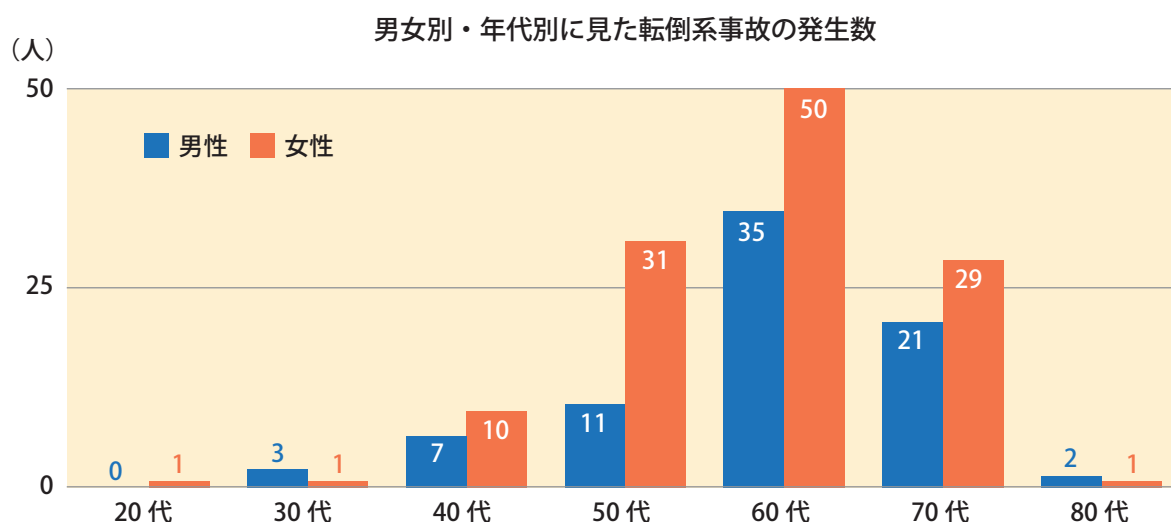
登山をより長く続けるため、加齢にどう対応すればよいのか。ここでも3つのポイントを示した。①山でゆっくり、かつ上手に歩く。②軽登山を励行する（週に1回、3時間程度の半日登山が効果的）。③日常では筋力やバランス能力のトレーニングが重要。

年齢が上がるほど、転ぶ事故が多くなっている（女性の方が多い）。これは、筋力の不

足や低下（とくに脚や体幹）が大きな要因。筋トレは必要だが、山で「ゆっくり歩く」ことも重要である。

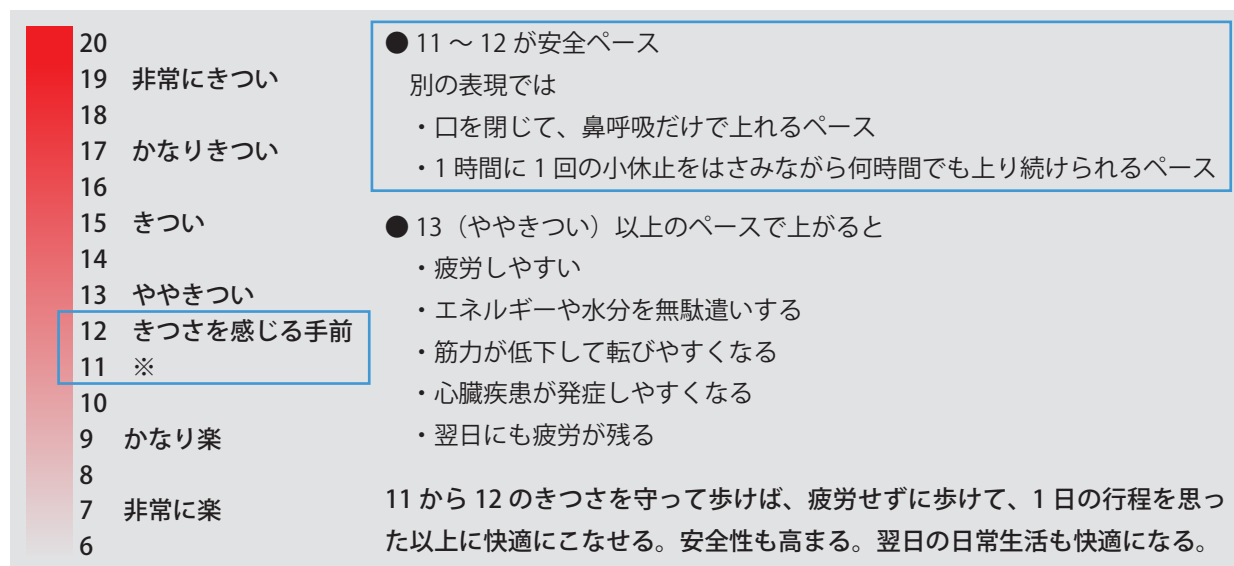
ポイント①「歩き方の見直し」。駅の階段を上る動画を観ながら、その速度や動きを見た。ほとんどの登山者は上りのペースが速いと感じた。体力に自信のない人、高齢者、心臓などに不安がある人、初心者は、1時間で300m～350mの上昇ペースで上る。体力のある人でも、荷物が重い時は、上記のペースが最適。

ポイント②「トレーニング方法の見直し」。登山力は、年齢や性別ではなく、現在どれくら



- ・年齢が上がるほど、転ぶ事故が多くなる。（女性の方が多い）
 - 筋力の不足や低下（とくに脚や体幹）が大きな要因
 - 筋トレも必要だが、山で「ゆっくり歩くこと」も重要

疲れにくいペースで上るための目安



い山に行っているかで決まる。1ヵ月あたりの登下降距離は、±2000m くらいを目標に実行すると効果が大きい。一般人が“健康のため”に行っている運動だけでは、健康にはよくても大きな山には通用しない。ウォーキングは運動時間はよいが負担が弱すぎる。階段登りは、負担はよいが量が少なすぎる（普通の階段は5～6m しかない）。最良の解決策は「軽登山」の励行。「軽登山」の例として、佐賀県「金立水曜登山会」の活動が紹介された。真夏も雨雪の日も、毎週水曜日に100名以上で登山する。これを続けている人は、日本アルプスの縦走やヒマラヤトレッキングなども支障なくこなせ、健康改善にも効果が大きかった。低山登山を励行することで、①健康増進、②体力改善、③登山中の安全性の向上、と三拍子揃った効果があったとのこと。

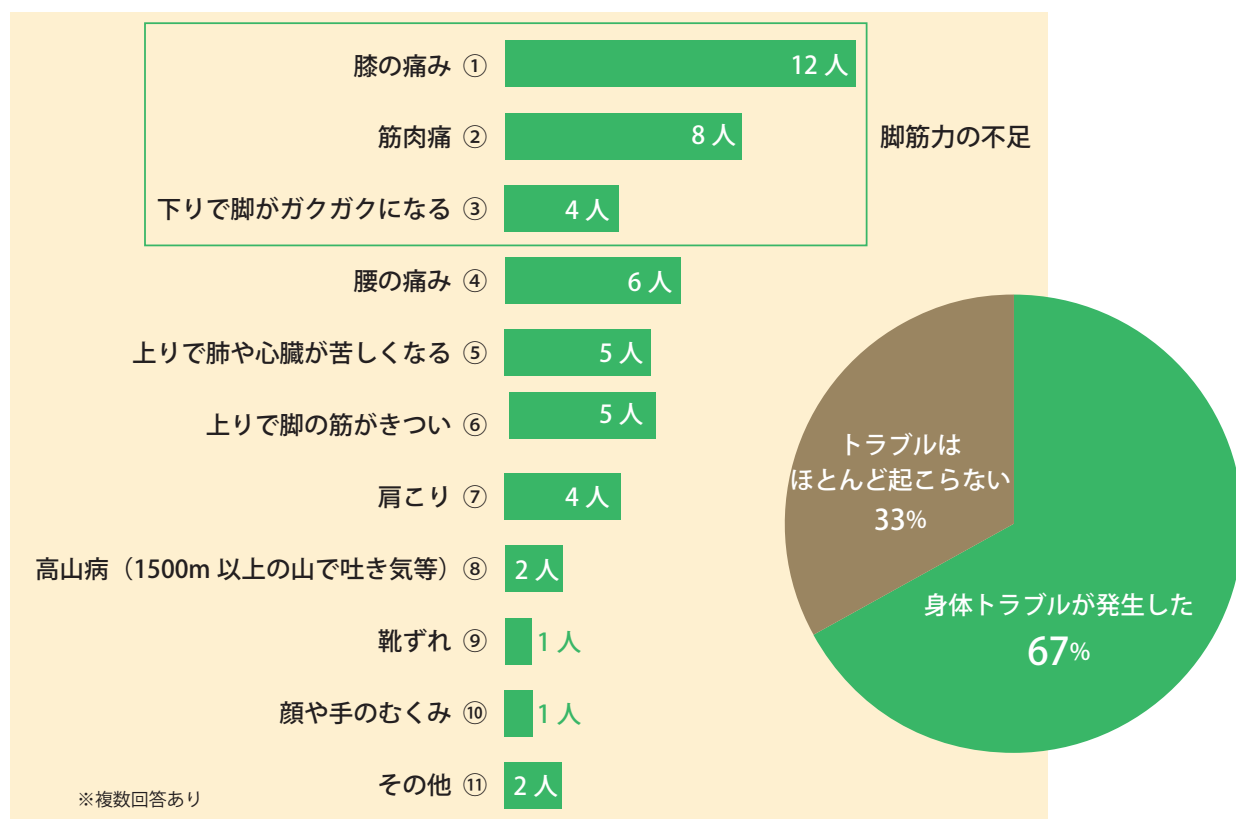
ポイント③「登山者体力の最大の弱点は筋力不足」。2023年11月の東京都連盟遭難対策研

究会にて、登山者カルテのアンケートを実施した。回答を集計すると、登山中のトラブルについて、膝の痛み・筋肉痛・下りで脚がガクガクする、が上位をしめていた。これらは脚筋力の不足が原因である。登山中に最も多い「転ぶ事故」は筋力不足で起こりやすい。山に行っているだけでは、筋力の低下を防ぐことは難しい。年齢が上がるほど、ただ山に行くだけでは筋力維持は不十分であり、日常での筋力トレーニングの重要性が高まる。

励行したい3種類の筋力トレーニングは、①スクワット（大腿四頭筋）、②上体起こし（腹筋）、③脚上げ（腸腰筋）。これらを10回×3セット（週に2～3回）。慣れてきたら、15回×5セット（週に2～3回）。これらのトレーニングは、膝痛や腰痛の防止にも効果がある。

その他、安全ペースを保つ登山地図アプリの紹介や、「きつい上りでの疲れにくい歩き方」「きつい下りでの疲れにくい歩き方」の説明があっ

登山中の身体の問題



た。具体的なデータを示しながらの講義は分かりやすく、楽しみながら知識が身についた。

教訓を事故防止につなげる

続いて、労山内での2023年死亡事故7件の中から、「十方山、滑落事故」(広島県連)、「番所山、行方不明滑落事故」(兵庫県連)、「剣岳、滑落事故」「日和田山、滑落事故」(埼玉県連)の死亡事故についての概要・経過・問題点などに関して報告が各地方連盟からあった。事故に繋がる要因が道迷いから始まっている事例が2件、状況検証により事故原因を推定した落石事故が1件、埼玉県郊外のゲレンデでの滑落事故1件(報告書未提出)。

報告された事故は、様々な要因が組み合わさって発生している。それらは、本人やパーティの能力、自然環境、ヒューマンエラー、装備、パーティや会の安全登山管理、など多岐にわたる。どの事例も要因に係わる基本的な内容がおろそかになっていたと思われる。各県連では、これらの教訓を事故再発防止につなげて頂きたい。残念なことは、報告書の未提出により、各会で話し合われた分析や総括が全国連盟に届かないことである。

『コンパス』登山届の活用を

二日目は、山岳安全対策ネットワーク協議会で『コンパス』を運営しているインフカム(株)今史靖社長に、「コンパス登山届の現状と使い方」について報告いただいた。この協議会は、安全に安心して登山を楽しむ環境を整備するために、「公益社団法人日本山岳会」「日本勤労者山岳連盟」「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」「公益社団法人日本山岳ガイド協会」「山と自然ネットワークコンパス」によって、2022年12月5日に設立された。

現在、36都道府県で、警察(36)や自治体(7)と協定しており、登山者が『コンパス』を使って計画書を提出すれば、登山口から山中の行動を把握し、下山連絡が入るまで追跡するシステムである。公共機関とのネットワークが結ばれ、『コンパス』を利用した登山届の提出率は年々高まっているとのこと。『コンパス』の従来の計画書作成に関わる機能以外に、有料のプレミアム機能を使えばさらに用途が広がり、以前より使い勝手が良くなる。

地方連盟から事故統計や活動の報告

続いて、兵庫県連から2017年から2023年における事故統計の説明があった。各会の事故者数・年齢別事故形態・事故の発生状況や特徴など、事故防止の一助となる統計である。近年、転倒系の事故が圧倒的に多いことや、下りでの女性の転倒系事故も多数であるという結果であった。全国の統計を裏付けているものと考えられる。

また、福岡県連から各地区協議会との協議のまとめとして、救助隊の活動が報告された。県連救助隊の必要性の是非、活動内容の問題点・課題等が箇条書きでまとめられていた。各県連でも参考になるデータであった。

最後に参加者からの質問を受け、『ココヘリ』と『コンパス』について、会議資料に掲載されている内容を含めて、労山山岳事故対策基金との関わりを川嶋理事長から説明があった。

全国遭難対策担当者会議は、近年発生している事故を分析し、その傾向を探り、ひとつでも多くの事故を防止する為の会議である。事故の分析や教訓を、事故防止の為に活用できる範囲は狭いが、今後に繋がる会議であったと考えている。

若手世代が 山岳団体に求めるものは？

JWAF フェス in みずがき

青年学生委員会・遭難対策部 三瓶健



「若者向けのイベントをやりたい」。全国連盟副理事長兼組織部長の久保典子氏からそんな話があったのは、今年の頭だったか、昨年の終わりだっただろうか。つまり、最近若い人向けの企画を全国連盟として実施しておらず、それではますます“若者の労山離れ”が進んでしまうので、まずは若手が集まるきっかけを作りたいということだった。そこで、比較的若い年代の全国連盟理事や組織部のメンバーらが軸となって立案し、「参加者だけでなく企画側も楽しめるイベントをやろう」という路線でスタートした今回の企画。さまざまな人の協力を得て、「若手のための JWAF フェス in みずがき」として、9月7日～8日の2日間、奥秩父・瑞牆山で開催することができた（瑞牆山荘泊）。参加者は総勢 33 名。

フェスの主たる目的は、「若者の声を直に聞く」ことだったが、それだけで人を集めるのは難しく、目玉となる企画が必要だった。そこで、長野県川上村でクライミングショップ『ROOF

ROCK』を経営し、日本有数のワイドクラッククライマーとして知られる北平友哉さん、カモシカスポーツ松本店に勤務し、登山時報にも連載企画を掲載して頂いている篠塚優さん（神奈川県連盟・山岳素行童人メ〜グリ家）のお2人に依頼。北平さんには、講演会『山と私～百名山から世界最難のワイドクラックへ～』（7日）と、瑞牆山・達磨岩でのワイドクラック体験会（8日）を、篠塚さんには瑞牆山パノラマコース登山（8日）という企画をお願いした。

北平さんの講演会では、ご自身が登山を始めたきっかけから始まり、百名山制覇を目指す途中でクライミングに没頭し、さらにワイドクラックへの道を突き進んでいった経緯、これからの目標を語ってもらった。私自身、北平さんの講演を何度も拝聴しているが、今回の講演は裏話的な内容も盛り込んでもらい、過去最高に楽しかった。北平さんのクライミングに向かうひたむきな姿勢は、これまでも周りの人に影響を与えてきた（私もその1人）。この講演を聴

いた参加者も、これからの山や生き方について、何かヒントを得たのではないだろうか。講演会前の空き時間を使っての『センチュリーくん』（北平さん自作のワイドクラックトレーニングマシン）のセッションも好評を博した。

2日目のワイドクラック体験会では、北平さんの丁寧かつ情熱的、時としてユーモアを交えたトークで盛り上がりを見せた。クラッククライミングの技術に関する書籍は、最近とても良いものがあるが、やはりエキスパートの登りを間近で見るのはとても参考になったはず。ワイドクラック愛好者の1人として、私も大いに勉強させてもらった。

篠塚さん企画のパノラマコース登山は、参加者は1名と数こそ少なかったものの、篠塚さん、サポートメンバーの盛り上げによって、なかなか雰囲気や人の少ない静かな登山を楽しむことができた。直前まで心配だった天気も問題なく日程を終えることができたのは幸いだった。

さて、「若者の声を直に聞く」という目的は達成できたのか？これについては、初日夜に1時間半ほどのディスカッションを開いた。事前実施したアンケート調査をベースに、若い登山者が何を求めているのか、その糸口を探る試みだった。最初は意見も少なかったが、議論は徐々に白熱してきて、「ベテラン会員との意見相違がきっかけで会を移籍した」「会の中では、



北平友哉さん自作のトレーニングマシンにトライ！



瑞牆山だるま岩にて



パノラマコースで静かな瑞牆山登山を満喫

労山に加盟している意義があるのかという議論がなされている」など、手厳しい意見も。一方で、「ハイキング層を呼び込むにはどうしたら良いのか」「労山の特別基金の存在はありがたい」といった前向きな話も聞かれた。このディスカッション自体、何か結論を求めているのではなく、風通しの良い雰囲気の中で本音を話してもらうことが目的だったが、主催者側としては、一歩目としてはまずまずの内容に感じられた。

労山会員全体の平均年齢は右肩上がりだが、一方で若い会員は全国で活動しており、中にはめざましい活躍を見せている人もいる。残念なのは、若手会員たちが知り合うための“横のつながり”の活動が極めて少ないということだ。そこを後押しして彼らをつなぐことができれば、労山への期待値も高まり、「労山に、山岳会に入ってた良かった」という声も増えていくのではないだろうか。



アジア山岳連盟創立30周年記念事業と総会

国際部長 大和田英子

アジア山岳連盟(UAAA)は1994年11月4日、韓国の仁川で第1回総会を開催し発足した。きっかけは1992年に日本の松本で開催した国際山岳連盟(UIAA)総会で、このときアジアの国々の出席が多く、日本が中心となってアジア山岳連盟を創ろうと提案が出た。当時の日本山岳協会斎藤一男会長はアジア山岳連盟設立には反対の立場だった。しかし2年後に突然、大韓山岳連盟からアジア山岳連盟発足総会の案内が届いた。国際山岳連盟加盟団体として日本山岳協会から斎藤会長他数名が出席し、アジア各国の圧倒的な要請に押されて、斎藤会長が初代アジア山岳連盟会長として選出され設立の運びとなった。加盟は13ヶ国18団体でスポーツクライミングの団体も多く、登山団体としての活動には難しい部分もあった。

日本勤労者山岳連盟は2000年11月にイランで開催されたアジア山岳連盟総会で満場一致により加盟が承認された。2009年4月には労山全国連盟事務所でアジア山岳連盟理事会会議を開催した。2014年11月の広島山岳平和祭(アジア山岳連盟創立20周年総会)では共催団体として国際山岳自然保護フォーラムの運営を担当した。

今回、20周年に続いて30周年も日本で開催するのはいかがなものか?と感じたが、昨年のネパールでのUAAA総会で日本山岳・スポーツクライミング協会が引き受けてきたので、協力要請があった。開催場所は新潟県長岡市、夏の花火大会は日本三大花火大会として有名な場所である。この花火大会は、太平洋戦争末期に大空襲により長岡市内のほとんどが焼け野原となったことを契機に、犠牲者への鎮魂と平和への祈りとして続いている。今、世界中で紛争が勃発している中で、「国際山岳平和祭」として開催するには相応しい。

7月24日にアジア山岳連盟総会が開催され、川嶋理事長と出席。活動報告では雷鳥目撃情報

などの自然保護、救助技術交流会などの遭難対策、登山道整備補助金や原水爆禁止国民平和大行進への参加など労山ならではの取組を紹介して、高峰登山やスポーツクライミング競技大会、国際山岳博物館の宣伝を主に行っていた各国とは活動内容の違いを鮮明にアピールできた。

参加国はインド、中国、台湾、韓国、ネパール、モンゴル、香港、日本とオンラインでカザフスタン、イランだった。

翌25日はアジア各国からの参加者に日本文化を紹介するため、日本山岳会の行事である高頭祭と弥彦山たいまつ登山祭への参加を企画していたが、業務過多のため労山からは参加できなかった。

26日、私が司会を務めた創立30周年記念式典は、主催者の準備不足と当日の内容変更などで、バタバタしたところがあり、最後のメインイベント長岡市立深沢小学校の龍神太鼓演奏まで、何とか時間内に終了することが精一杯となった。

続いて祝賀会となり、突然、会場の天井から壁までをスクリーンとした「長岡花火大会」のプロジェクションマッピングが披露され、しばし見入ることになった。毎回のことだが祝宴の後半はネパールからの参加者が司会のマイクを握り、歌えや踊れと個々に盛り上がっていた。私の隣の席にはUIAA副会長、インドのアミット氏夫妻が着席していたので、アトラクションについての説明に多くの時間を割いた。彼はこの後、富士山に登りたいと言っており、無事に登頂できたようだ。

アジア山岳連盟は交流友好が大きな目的で、旅行会社の関係者などにはメリットがある。しかし、登山文化を発展させようとする労山にとっては、国際山岳連盟の活動に参加する方が有効ではないかと以前から考えていた。今回はその思いをより強くすることとなった。

JWAF CALENDAR 2025



2025年 カレンダー

申込案内



会員が撮影した
写真13点で綴る
労山オリジナルの
カレンダー！

壁掛けタイプ
364mm × 515mm
B4 中綴じ・28 ページ
日曜始まり



価格：1 部 1,550 円 / 2 部 2,760 円 / 3 部 4,100 円 / 4 部 5,100 円 (送料・税込) 5 部以上は要問合せ
労山事務所で受取＝1 部 1,000 円 (税込)

申込方法：送付先 (氏名・郵便番号・住所・電話番号) を明記して送金してください。

郵便振替口座 00180-0-212568 日本勤労者山岳連盟事務局 宛

★労山会員は所属会を通じて地方連盟へお申し込みください。価格も地方連盟へお尋ねください。

原水爆禁止国民平和行進

2024 年 各地方連盟で元気に取り組まれる

日本勤労者山岳連盟 副理事長・組織部長 久保典子

5月6日に東京夢の島から原水爆禁止国民平和行進は元気に出発した。

全国連盟からは浦添会長、久保副理事長、小池事務局長、石川財政部長の4人が参加。浦添会長、石川財政部長の2人に改めて参加回数などを聞いてみた。平和行進参加は、個人としては50年ほど前から、全国労山の役員になってからも欠かさずに参加しているとのこと、そのころの登山時報にも様子が掲載されているということだ。東京の出発集会と行進に継続して毎年参加し、「平和と登山」の労山旗を東京都の会員の方々と共に高く掲げ、行進してきてくれたことに、敬意を感じる。

この労山旗は、ビキニ環礁で被爆したマグロ漁船が展示される、東京の第五福竜丸展示館前の出発式会場から、各地方連盟の「平和行進」参加者にリレーされ、「平和でこそ登山ができる」の登山者の思い・願いと共に、今年の終結

点の地広島へと8月4日に受け継がれた。暑い日、雨の日の中を歩き通した地方連盟の参加者には大いに敬意を表する。

今年の日本全国各地からの行進参加者数は主催者側ではまだ集計途中だそうだが、核兵器廃絶署名数は延べ277万3683人に（9月20日時点）達したとのことである。

2023年に、労山からこの運動に参加した地方連盟は13連盟である（2024年2月総会地方連盟の報告による）。

今年は、来年2月の評議会前には各地方連盟の取組の様子がわかるようにしようと、8月に平和に関する活動の活動報告アンケートを各地方連盟に配布したところである。皆様のお手元に届いているだろうか。組織部では集計途中であるが、いくつかの地方連盟からは取組の様子が届いている。どんな一言でもいいので声を届けてくれることをお願いしたい。

労山の取組の歩みは 地方連盟の取組から

労山は、1960年に「日本勤労者山岳会」として創立された当初から軍国主義復活に反対し、平和を大切にする姿勢を明確にしてきた。その後も平和と登山の議論がされ、15回総会以降、議案に必ず平和問題が取り入れられるようになった。1985年に兵庫県連盟がこの国民平和行進の運動に参加。1986年から、全国連盟が各地方連盟に行進への参加を呼びかけ、それ以降全国的に取り組まれてきたと、労山60年史に記載されている。



5月6日。東京・夢の島から行進スタート！日比谷まで4時間歩ききってピース！

「平和と登山集会」で「国民平和行進」の討議が

今年、全国労山主催・組織部主管で「平和と登山全国集会」が6月29～30日に東京・飯田橋で開催された。全国連盟が「平和集会」を単独で開催するのは初めての事である。

その集会の討議の中で、2025年は被爆から80年にあたることを改めて認識させられた。というのも、長崎県連盟の会員から、リアルな声が沢山届いたからである。

原爆は1945年8月6日に広島、9日に長崎に投下され、あの日から80年になろうとしていること。世界で唯一の戦争被爆国である被爆者の方々が「核兵器は二度と使用させてはならない」という願いで、必死になって運動していること。その被爆者の方々も今では多くが亡くなられ、被爆体験を語り継がれる方も超高齢化しておられること。それでもなお、この運動の先頭に立ち続け頑張っておられることなど、沢山の声が報告された。

もう一つ、これからの労山は「国民平和行進」をどのように発展させていけばよいか、という意見が出され討議された。集会後に「国民平和行進」の主催団体・原水爆禁止日本協議会に全国的な今年の実行状況等を問い合わせたところ、行進参加形態も「ピース・チャリ」「ピース・ライダー」など様々であることがわかった。地域の一人でも多くの人に伝え広めることが大事なので、メインコースに行進参加できなくても「地域平和行進」と位置づけて、「お散歩行進」や、夜なら参加できる参加者による「ナイト行進」など、今までにない形でも取り組まれた方々がいるとのことである。労山会員の東京会場行進参加者からは、メインコースの行進区間を、労山行進参加者同士でいくつか区切り、行進距離を短くすることで行進参加を容易にする案などが出てきている。常に運動を前進させ

5月20日。集会が始まる頃に雨が上がり、時折雲間から富士山頂が望める暑い中、汗ばみながら行進。天城山の会（静岡）から8名が参加



7月21日。北九州市の門司駅前で行進3コース合流集会が行われ福岡県内の行進が終了。山口県へ引き継ぎ広島を目指す

るには創意・工夫、何かしらの新しい事が求められており、皆で考えて意見を出し合いながら取り組むことが大事である。

2025年は被爆80周年

兵庫県連は行進参加50周年を迎える

東京を出発した国民平和行進は、「一歩でも、二歩でも共に歩きましょう」「今歩ける人は一緒にませんか」との呼びかけを道行く人にしながら、「no more wars」「no more Hiroshima」「no more Nagasaki」「平和は大事」「戦争いやだ」などのピース・コールを空に響かせ、労山旗を神奈川県連にリレーした。

来年2025年は被爆80周年。労山においては、兵庫県連が国民平和行進参加から50周年になるなど、節目としてとても大切な年を迎える。

全国労山が地方連盟と共に運動に携わって49年目を迎える来年は、よく討議し、一歩でも二歩でもこの運動への取組を、地方連盟と共に前進させていきたいと考えている。

「平和と登山」「核兵器廃絶」の労山旗を掲げリレーしながら国民平和行進に参加された各地方連盟の皆さま、そして地域で参加された会員の皆さま、お疲れさまでした。

平和と登山全国集会 in 東京

延べ 93 名が参加

参加者の
アンケートを
紹介します

平和と登山全国集会

期日：2024 年 6 月 29 日（土）～ 30 日（日）

会場：東京セントラルユースホステル ZOOM 併用

内容：来賓あいさつ：柴田真佐子氏（日本婦人団体連合会会長）

記念講演：野口邦和氏（原水爆禁止世界大会実行委員会共同代表）

「核兵器禁止と世界平和への道～核兵器も原発もない世界の実現をめざして～」

基調報告：浦添嘉徳（日本勤労者山岳連盟会長）

地方連盟からの報告と自由討議、飯田橋駅前ピースアクション



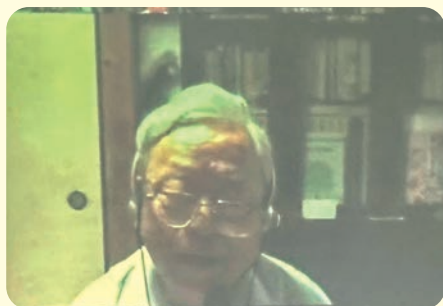
1 柴田真佐子氏 来賓あいさつについて

日本婦人団体連合会があることを知りました。全国組織として頑張っていて欲しい／難しい話だった／長い間の取組、経験を聞くことができ興味深かった／昨今の日本女性の運動について聞くことは貴重な経験でした。「平和と登山」を守る運動に共感して頂き力強く感じた。



2 浦添嘉徳会長 基調報告について

労山が、「平和と登山」が会の基本であると述べたこと、歴史を紐解き、平和だからこそ楽しく登山ができると報告したことに、感銘を受けた。現在の日本はきな臭く山登りもできない社会へと動いているようで、憲法 9 条を山登りに活かしたい／話がわかりやすく、登山の目的が明確になった／労山の取組がわかった／先人たちの平和運動の歩みを知り、最高に聞きごたえがあった。広く語り伝えて欲しい／歴史を紐解いての報告がよかった／話し方に工夫が欲しい。少し長い／タイトル「全国労山の平和と登山の問題を考える」も良く、これからこのような観点でも全国労山を盛り上げていきたい





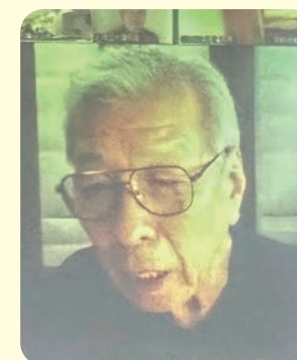
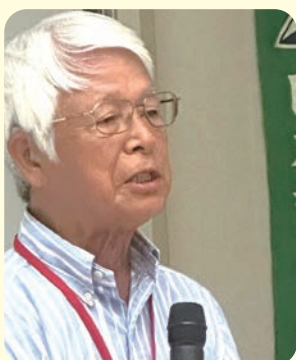
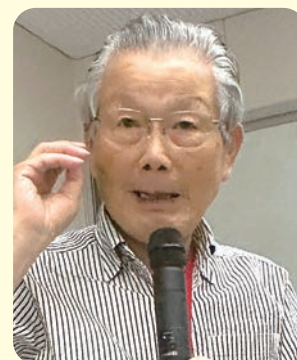
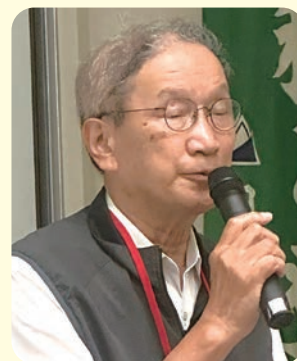
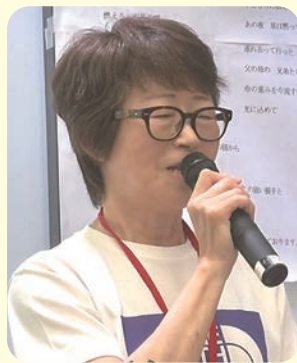
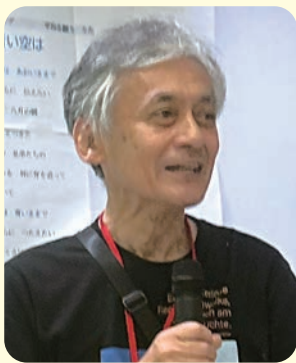
／労山が「平和と登山」を掲げて活動してきた背景を知ることができた。登山団体が戦争に協力させられていった事実には驚いた。「戦争・軍事費の増強は、地球温暖化の進行を助長し、貴重な山岳自然にも影響が出るので『平和と登山』の追求は地球温暖化を阻止することにもつながる」とても説得力のある言葉です／労山入会35年になるが、これまで知らなかった労山の歴史について知ることができた／労山の平和に対する取組・歴史がわかった。

3 野口邦和氏 講演について

核兵器の現状について大変よく分かった／原発に代わる代替の発電を示していただければもっと良かった。森林や水田がソーラーパネルに置き換わっていく現状を見ると、これからの

エネルギーの在り方を考えさせられる／佐賀県の玄界灘に最終処分場設置が検討されるようになって身近になり、真剣に聞きました。勉強になり、知りたかったことも良くまとまっております、もやもやが消えた／核と原子力、知らないことが多すぎて理解がなかなか追いつきませんでした。「核抑止」はいざという時は躊躇なく核兵器を使用することを前提とした危険な考え方。「核抑止」は「核脅迫」「核威嚇」とすべきという野口先生の考え方に同感。唯一の被爆国である日本が変われば、核兵器をめぐる状況はアジアも世界も劇的に変わる（ICAN 前事務局長）日本はそれほど影響力のある国なので、日本政府は核兵器廃絶への道をめざして欲しいものです。私たち労山の仲間が、今すべきことは何かを、色々考える機会を与えていただいた講





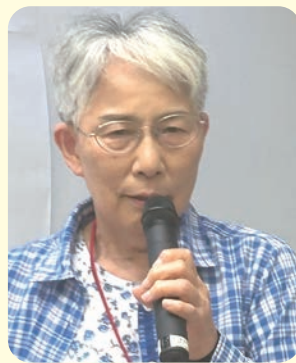
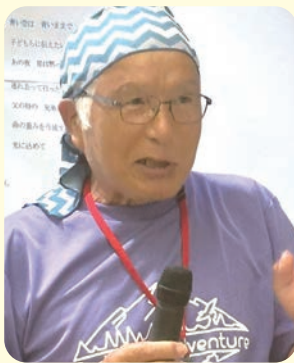
演だった。

4 10本の平和活動レポートについて

コツコツ活動されていることを知り、仲間がいることに心強さを感じました／各地方からの報告はそれぞれに興味深く、特に近隣の県の報告に出てきた戦争遺跡については訪れてみたいと思う／Zoom参加者に発言の機会を与えてくださりとてもよかった／各地の活動を知ることができよかった／参加者の高齢化が進み活動に影響がでていることを知った／各地の取り組み（平和行進、平和ハイキング、9条の会など）がまとめて報告されていたのは貴重／東海や西日本では例年どおりに平和行進が引き継がれている。東日本の報告がなかったのは寂しかった。どの地方からの報告もよかったです／全国連盟総会で収集された「平和と登山」の地方からの報告は貧弱でしたが、今回の全国集会で集められた地方からの「平和と登山」のレポートはどれも素晴らしく、今後の参考になりました。特に、長崎、広島、沖縄に関しては全国レベルでも考えていかなければなりません。このような地方からの「平和と登山」の報告も毎年2月に開催される総会、評議会でも少し時間を広げてセッティングしてください／レポートはどれも素晴らしかったです。

5 さてこれからは…私たちの提言

「憲法9条の碑」は沖縄戦から40周年を迎えた1985年5月、那覇市与儀公園に全国で初めて建立されました。2024年6月現在、全国で39か所に建立されていますが、そのうち8か所は沖縄県内の市町村にあります。日本は今、戦争する国へと動いています。米軍の言うままに戦争する国になることは許されません。安保条約第10条に明文化されているように、国民



の総意で一日も早く条約を破棄し、戦争しない国を目指したいものです。他県の真剣で活発な取組を聞いたので、広島に帰り、もっと頑張っ
てこの問題を取り組まなければならないと思う／日本山岳・スポーツクライミング協会にはこのような大会はありません。紹介しておきます／今回初めて実施した「平和と登山」集会は非常に有意義であった。毎年5月に実施している「平和大行進」は準備不足の感があります。「平和大行進」に絡んだイベントにしていくことにより、両方のイベントがもっと盛り上がり、参加者も増えると思います。実施時期については今後の検討課題としていただきたく提案いたします／集会のまとめを充実させて欲しい／今回の「平和と登山」集会は「大」成功でした。今後も隔年等定期的に取り組んでください。連盟の「平

和あってこそ登山ができる」の理念がこのよう
な集会で輝きます／開催時期について平和行進のスタートの前であれば集会を契機に、集会で訴えて参加者を増やして実際の運動も高揚させる仕掛けになるだろう。この時期は何とも中途半端な時期であった。

6 初めて取り組んだ ピース・アクションパレード

このアクションにだけ参加された方が2名いました／「平和でなければ、登山はできない」を道行く人に訴えました／街頭に立つのは勇気のいることです。でも充実し楽しかったです。話しかけてくれる人もいたので、署名用紙の準備をしていなかったのが悔やまれました。



アポイ岳を目指して

大西清見（泉州勤労者山岳会／大阪）

北海道山行紀行文



キャンプ場からアポイ岳を望む
(左端のピークがアポイ岳)



様似町地図

北海道の旅 残された山

北海道を久しぶりに旅した。2009年の大雪山・十勝岳以来だろうか。2005年に知床を縦走しているから、残りの登ってみたい山はアポイ岳と礼文岳（礼文島）の二座となり、いずれも高山植物固有種のヒダカソウ、レブンソウに会いたいと思い続けてきた。今回コロナ禍明けでやっと、その一つアポイ岳を目指すことになった。

新千歳空港から^{さまに}様似へ

日程は五日間、できるだけ格安で、が旅の目標だ。アクセスは新日本海フェリーで舞鶴～小樽を考えたが、格安航空券を利用すれば費用もそれほど変わらず、日程もまる二日分節約できることが分かった。と言ってもアポイ岳山麓の様似までのJR北海道の特急バスも、一日一便で五日間のプランが大変だった。当初、すべて

現地ではテント泊の計画だったが、ザックの軽量化と様似の週間天気予報が雨模様であったので、様似では民宿、バンガロー泊とした。

6月27日（月）7時50分、関西空港からピーチ格安航空券で新千歳空港へ（約2時間）。新千歳空港から苫小牧へ道南バス、苫小牧から一日一便の襟裳行きのJR特急バスで様似へ（苫小牧14:25発～様似17:15着）、バスの乗客は二人だけ、廃線になった日高本線の線路と海岸を眺めながらの長いバス路となった。27日・30日は様似の民宿（女郎花、おみなえし）、28日・29日はアポイ岳山麓のキャンプ場のバンガローを予約。くしくも五日間の日中の天気予報は曇りまたは晴れ、夜は雨のパターンとなって、いささか天候は幸運のようだ。

民宿は様似町の東端、食事処の一階に新しくオープンしたばかりのビジネス風で、居心地が良かった。宿はすべて女将さんが仕切っておられ、様似最終日には軽乗用車で様似港を案内して下さった。様似は漁業が盛んで、サケ、ウニ、ツブ貝などの漁獲量が多かったが、2021年の北海道太平洋岸で発生した「赤潮」により、とくにウニ、ツブ貝は大量死する被害が出たそうだ。その被害は今も影響しており、様似の海が再び豊かさを取り戻すために、漁場の清掃や種菜の育成などに取り組んでいるとか。アポイ山麓のキャンプ場は壮大で、オランダ人などの外国人もテントを張っていた。バンガローは小型でシンプル、1泊1棟2,000円で多人数利用だと安くつく。久しぶりの単独行の夕食も、焼酎お湯割りもあってうまくいった。

様似の花と駅

28日（火）、様似町役場等で様似町、様似の自然等の資料を収集した。背面にアポイ岳と日高山脈、前面に紺碧に輝く太平洋をたたえる様似町（人口約3,800人）。穏やかな海洋性の気候と豊かな大地の広がりの中で、水産業・農畜産業が主産業であることが分かった。様似の町の花は「ヒダカソウ」。アポイ岳の高山植物群落は、高山植物の宝庫として国の特別天然記念物に指定され、その中でも、ヒダカソウはアポイ岳の固有種だ。開花は5月中旬から下旬で、可憐な白い花を咲かせるそうであるが、かつての大量盗掘で今はほぼ絶滅状態だそうだ。また、様似といえば、JR日高本線の終着駅で知られている。かつて襟裳岬の近くまで続いていたJR日高本線は、2021年4月に^{むかわ}鷗川から様似まで約116kmの線区が廃止になった。高波による路盤土砂の流出で不通となって以来、JR北海道と沿線自治体との協議が続けられたが、最

終的には鉄道の廃止を選択することになった。JR北海道の他の多くの地方路線は廃線となったり、今後も廃線が検討されているという。この五日間、何度も様似駅を訪れ、錆びついた線路を見て、もう誰も待っていないと思うと寂しく悲しくなり、次の一句が浮かんできた。「やませ吹く最果ての駅誰を待つ」（注：やませは北日本の夏の冷風）



JR 北海道日高本線・様似駅



キタヨツバシオガマ

アポイ岳 (810.6m)

29日(水)曇り、天候は晴れていないがアポイ岳登山に決めた。アポイ岳は多くのガイドブックに「高山植物の宝庫へ小さな山旅」と書かれてあって、多様な高山植物を大いに期待した。またアポイの由来も、アイヌ語で「アペ(火)オイ(多い所)ヌプリ(山)」が略されたもので、アイヌの人々が鹿の豊猟を、火を焚いてカムイ(神)に祈ったという伝説も興味深い。ビジターセンターを9時10分にスタート、帰着が午後4時30分なのでコースタイム(約5時間)よりずいぶん遅い歩行時間だ。久しぶりの山歩きと高山植物の撮影にかなり時間をかけたからだろう。コースは冬島コース、五合目の休憩小屋を経て馬の背へ、この馬の背の岩稜あたりから次々と花が足元を彩る。一つ一つ図鑑で花の名前を調べるので足が前に進まない。確認できた高山植物はチシマキンレイカ、アポイキンバイ、キンロバイ、アポイクワガタ、エゾコウゾリナ、アポイアズマギク、キタヨツバシオガマ、目的の一番人気の固有植物ヒダカソウには出会えなかった。以前見られたヒダカソウは盗掘で(一時、100株もの盗掘もあったそうだ)、今はほぼ絶滅状態のようで、登山と花との付き合い方を考えさせられる山道になった。13時55分、アポイ岳登頂、ダケカンバの林に囲まれ、展望はあまり利かない。この日出会った登山者は12パーティー、道内より道外、特に関東方面からが多いようだ。

様似の海岸地形

30日(木)曇り、朝イチで様似東方の日高^{やばけい}耶馬溪に出かけた。太古の地球に起きた2つの地形変動を実感したいと思ったからだ。アポイ山荘前から冬島(日高昆布で有名)を経て目的地の中山へ。中山バス停で下車後、帰りのバス

を2時間以上も待たねばならないことに気がついた。帰りの中山からキャンプ場まで10キロ以上、歩いても良かったのだが、青年時代のヨーロッパ旅行でよく使ったヒッチハイクを思いついた。国道336号線で通行量は比較的多いが、ヒッチハイクのチャンスは難しいと考え、地元の方の運転手であろう軽トラに狙いを絞った。ヒッチハイクを始めて即、最初の軽トラが止まってくれた。ドライバーは私と同年代の女性、キャンプ場まで乗せていただき話も弾んだ。冬島で息子さんと昆布漁をしておられ、これから夏にかけて忙しくなると仰った。様似で出会った大勢の人たち、とても親切で僕の初めての様似の旅を助けていただき感謝している。

さて、2つの地形変動のことを。とても興味があったので調べたこと、見たことを簡潔にまとめてみた。

写真・地形変動1…冬島から幌満にかけての約7kmの断崖絶壁の海岸を「日高^{やばけい}耶馬溪」という。約1,300万年前、アポイ岳を含む日高山脈は2枚のプレート(太平洋プレートと北米プレート)がぶつかりあい、その境目がめくれ上がってできたという。このエリアには、2枚のプレートの境目、すなわち日高山脈誕生の現場を見ることのできる貴重な場所がある。その場



地形変動1：冬島、かつてのプレート境界

所が写真。上部の小さな湾がかつてのプレート境界、手前の潮が引いた時の海岸が太平洋プレートの扇端だ。北海道、日高山脈ができた2つのプレートの衝突現場を見て、いささかではあるが地球の歴史のスケールの大きさを実感できる一瞬であった。

写真・地形変動2…かつてのプレート境界の近くにルランベツ覆道の^{しゅうきよく}褶曲がある。地層が強い圧力で押し曲げられた褶曲、この岩場では、やや赤紫色を帯びた褐色の岩石（片麻岩・へんまがん）が緑灰色の岩石（角閃岩・かくせんがん）を包み込んでいる様子が見て取れる。調べてみると、角閃岩は海洋プレートの岩石で、片麻岩は大陸プレートの岩石。まったく性質も生成場所も異なる岩石が、ロールケーキのようにクルリと巻かれているわけだ。ここでも太古の地球に起きたドラマを思い起こさせてくれた。



地形変動2：ルランベツ覆道の褶曲



日高耶馬溪の海岸。アポイ岳の山麓が太平洋に落ち込み約7kmの断崖絶壁をつくっている。左端は日高耶馬溪の海食崖。

様似を後にして

31日（金）曇り、様似発苦小牧行のJR北海道バスは一日一便、午前6時10分に乗り込んだ。バスは襟裳発、様似では乗客は一人、途中の浦河、^{にかっぶ}新冠あたりから乗客が少し増えていった。その乗客の大半は、同乗者同士の会話から苦小牧への通院と思われた。午前9時過ぎに苦小牧沼ノ端北口に着き、時間調整をして午後3時40分新千歳空港発のピーチ航空機に乗り込んだ。

振り返ると27日、15kgの重いザックを背負い、様似の町を歩いていく自分の姿は、なんと1969年頃に北欧を旅する自分と重なった。重いザックを背負い、なかなか見つからない宿を探す自分。5月下旬といえども空気は冷たく、空はどんより曇っていた。町の背後は針葉樹の森、町の多くの家はカラフルな壁面に平屋の家々。北欧ノルウェーのトロムソあたりを歩いた風景と重なった。あれから55年、一見若者の旅のスタイルの自分ではあったが、あきらかに衰えた体力で、心身を振り絞って歩いた。しかし、この五日間を振り返ってみると、様似町の大自然に癒され、豊かな人々の心に励まされて、明日へ生きるエネルギーをいっぱい頂いたようだ。次は残された北海道・礼文島へと旅は続く。

気象のお話

登山に役立つ

気象予報士・野尻英一

背景に地球温暖化、 富士山の死亡事故・迷走台風 気象データから考察

最近、軽装登山、弾丸登山、インバウンド、入山規制と何かと論議の多い富士山だが、今年の夏山シーズンの死者は9名と昨年の倍以上となった。その背景には気象の異変を指摘する向きもあるが、気象データから考察してみよう。

表1が夏山シーズンの富士山頂の気温と日照時間だ。昨年に比べて気温は高め。富士山では夏でも氷点下に冷え込む日が毎年あるが、今年はゼロ。つまり、山頂の気温からは特に悪い傾向はみられないようだが、図1であらためて毎日の気象状況を確認しよう。梅雨明け前や8月末以降は低温、強風など天気が不安定な日が多い。死亡事故発生日をピンクで塗ったが、この時期に発生が多い。7月下旬から8月は概ね天気が安定していたが、死亡事故が起きた7月24日は強風低温で日差しもほぼ無かった。

下界の猛暑が異変の原因か

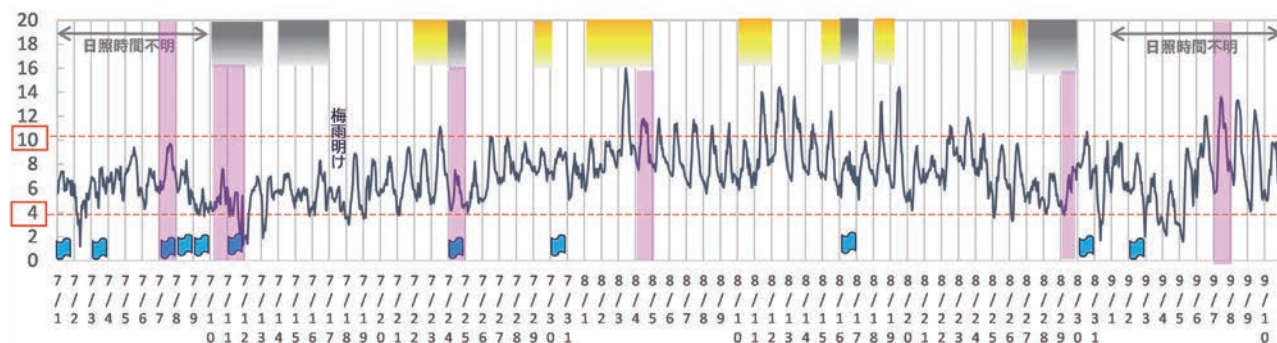
しかし、今年の富士山の天気は過去とは違う傾向があったのではないだろうか。表1で日照時間を見ると平均日照時間が短く、10時間以上陽が差した日数も少ない。つまり、安定して晴れた日が少ない一方で雲が湧く日が多く、天気が急変し、にわか豪雨や雷が多かったと推察される。その原因は下界の猛暑だろう。下界が暑いと上昇気流が起これやすく霧や積乱雲が発生する。表2が富士山麓4地点の猛暑の日数だが、昨年今年と急増している。去年は「60年

表1：富士山の夏山開山期（7/1～9/10）の気温、日照時間

	2021年	2022年	2023年	2024年
日最低气温の平均 (8月)	3.0℃ (3.9℃)	3.9℃ (4.3℃)	3.8℃ (4.3℃)	4.7℃ (5.6℃)
氷点下の日数 (8月)	4日 (0日)	1日 (1日)	3日 (0日)	0日 (0日)
日照時間 1日平均	6.4時間	6.5時間	7.9時間	5.9時間
10時間以上の日数	17日	13日	18日	12日
1時間以下の日数	13日	9日	6日	11日

※日照時間は7/10～8/31までの集計、平均。

図1：2024年の富士山の夏山開山期の気象



折れ線グラフ：気温（1時間おき）、ピンク色は死亡事故発生日。

グラフ上部のオレンジ色＝日照時間10時間以上、灰色＝日照時間1時間以下。

青の旗印：館野（つくば市）の高層気象観測で高度約3000mで風速15m以上の強風。

（富士山で風の観測が行われていないため、近い高層観測点を示した）

表 2：富士山の山麓 4 地点の猛暑の日数（夏山開山期）

	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
三島 35℃以上	1 日	2 日	9 日	20 日
富士 34℃以上	1 日	3 日	9 日	14 日
御殿場 32℃以上	6 日	4 日	13 日	20 日
河口湖 31.5℃以上	6 日	8 日	20 日	24 日

※ 4 地点の標高を考慮し猛暑の基準になる気温を調整した。

に一度の異常猛暑」と言われたが、今年はさらに上回る猛暑となった。その背景に地球温暖化があることは確実とみられ、異常猛暑は来年以降も頻発する可能性が高い。ゲリラ豪雨は大雨に加えて暴風、落雷、気温低下を伴う。富士登山の危険度は増しており、気象の理解と準備が死活的に重要な時代に入ってきたと言えよう。

上層寒冷低気圧と台風の迷走

次いで 8 月 22 日に太平洋上に発生した台風 10 号。当初は順調に北上し 27 日に東海から近畿に上陸とみられたが、実際は西に大きくそれて迷走し上陸も遅れた。図 2 が予想進路と実際の進路だが、なぜこうも予想がはずれたのだろうか。私は上層寒冷低気圧が原因とみている。上層寒冷低気圧は夏に太平洋上に存在する上空に寒気のある上空の低気圧だ。地上天気図には描かれないので高層天気図や気象衛星画像でないとわからないが、実は 22～24 日に北東から台風の進行を横切るように駆け込んできた（図 2 の緑の円と矢印）。上層寒冷低気圧と台風はどちらも“低気圧”だが、近づくと互いに進路

に影響を及ぼし合う『藤原の効果』という現象が知られている。基本は互いに反時計回りに回るのが、そのため台風 10 号は進路が左に曲がって西寄りに変わった。このように上層寒冷低気圧により台風が迷走することは時々あり、最近では 2018 年の台風 12 号の例がある。「台風情報は常に最新情報を」という由縁だ。

秋台風通過後は強い寒気に注意

さらに山で注意すべきは「秋台風は通過後に寒気が南下する」ことで、季節外れの吹雪や氷雨の危険がある。図 3 が 9 月の台風 14 号で、中国上海付近で向きを変え温帯低気圧に変わって日本海を東進した。点線が高度約 3000 m で 6℃の等温線で 21 日を青、22 日を緑、23 日を赤で示したが 22 日は山陰沖まで、23 日は東海関東の南まで南下した。右下隅の小さなグラフが富士山の気温だが、台風から変わった低気圧が通過した 22 日から 10℃も低下し、23 日夜には -1.2℃まで下がった。寒気の南下にあわせ秋雨前線も南下したこともわかる。

台風が日本の東を北上するときも同様に寒気が南下する。図 4 がその例で、このときは真冬並みの寒気が北陸の近くまで南下し、立山で天気急変し吹雪になり 8 人が死亡する遭難が起きている。山では台風に注意することはもちろんだが、秋台風は通過後や日本の東を北上するときも要注意だ。

図 2：台風 10 号の進路予想と実際の進路

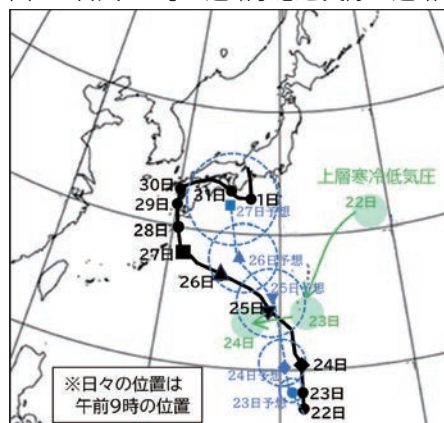


図 3：台風 14 号の進路と寒気の南下

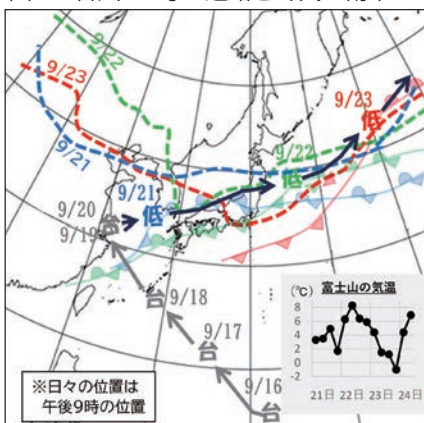
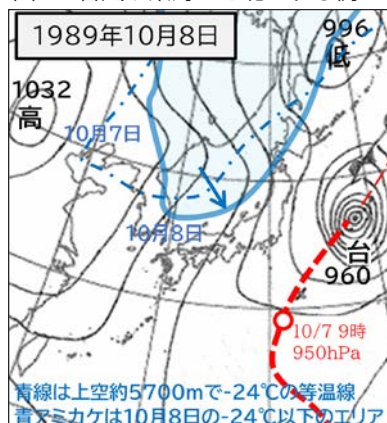


図 4：台風が東海上を北上する例



遭難現場からの レポート

第七回

2008.11.26

日本勤労者山岳連盟 理事長 川嶋高志

遭難の教訓

備忘録⑦ 『海外』

○事故の増加

コロナ禍が収まるとともに海外山行が活発になってきた。それに比例して事故も増えている。2022年の4件から、2023年は9件、今年は9月までに13件発生している。特に著名な登山家の死亡事故が続いて暗澹たる思いだ。私が2004年に労山の専従職員になってから、昨年までの20年間に海外山行で死亡・行方不明になった労山会員は17名になる。その中には一緒にK2の山頂に立ったM氏がいる。「次はロー

ツェからチョモランマの縦走をやろう」と約束してから3年後の2007年、単独でチョモランマを目指し北稜C2で亡くなった。アルパインクライミングをやりたいと言って同じ会に入ってきて、八ヶ岳や 鹿島槍・劔の積雪期岩稜を共に登ったK氏も、2013年にダウラギリI峰から帰らぬ人となった。2人とも、まだヒマラヤの標高7700m付近にいるはずで、連れて帰りたいという思いが込み上げる。もう1人、新しいクラブを立ち上げ、東京都連盟救助隊でも困難な救助活動を協力してこなしA氏は、遺骨となってしまったが、ニュージーランドま

で迎えに行き、帰国させることはできた。以下はその教訓である。

2008年にも押し詰まった12月2日未明に、外務省邦人保護課から私の携帯電話に連絡が入った。日本人パーティがマウント・クック（アオラキ）3754 mから下山していない。現地の警察が搜索を始めた。労山のパーティではないか？との連絡だった。このような問い合わせが時折私の携帯に入る。海外山行の場合、所属団体や留守家族に計画書を残すことはあっても、外務省や現地の日本大使館や警察などに届けることは少ない。大きな遠征隊以外の個人山行の場合、現地で登山計画書を受付ける習慣も届け先もないので、旅行代理店や現地ガイドなどが関わっていないケースでは、遭難事故が発生しても誰がどこでどうなっているのかを確認できない。宿泊施設などから日本人が戻らないという連絡が入り登山者らしいとなると、毎年300件以上の海外山行計画書を受付けている労山事務所に「お宅の会員ではないですか？」と連絡が入ることになる。

何回も繰り返すようだが、山行計画書は警察や全国労山、所属団体のために出すのではない。自らの安全性を高めるために出すものだ。山行中に不測の事態が発生した時に、できるだけ早く救助に来てもらうことの重要性を考えてほしい。

このケースでは英語の計画書を、宿泊した小屋に残してきたので救助活動はスムーズに行われた。2名パーティでグランドトラバースを4日間で踏破する計画だった。亡くなったリーダーのA氏はプロの山岳ガイドで、マウント・クックは何度か登頂し2003年にはツルブリッゲン稜での救助をした経験もあった。3日目に山頂を越えて安全地帯まで辿り着く予定だったが、時間がかかり11月28日にミドルピー

ク手前で幕営。以降、悪天で6日間動けず、6日目に^{あられ}霰の降雪でテントが潰され雪中ビバークし、7日目の12月5日に救助ヘリで助けられたが、同行者のN氏は凍傷のみで生還したもののA氏は亡くなった。

直接の原因は悪天候である。過去には同じ場所で14日間ビバークした記録も残っている。しかし、このケースでは軽量化のため、ガスボンベや食料を減らしスコップを携行しなかったことも、遭難する大きな原因となった。最も残念なことは5日目に強風の中、ヘリが強行出動し救援物資（無線機・食料・燃料・スコップ）の投下に成功したが、それに気が付かなかったことだ。テントのすぐ横にあったが、入り口の反対側で回収することなく、その後の積雪に埋もれてしまっていた。停滞中の体調管理など、生還するための対策はいくつも考えられるが、救出される6時間前までは会話をしていたそうなので、生死を分けたのは運命だったのかもしれない。

ニュージーランドでは環境管理局がプロの山岳救助隊を組織していて、公的な搜索救助活動

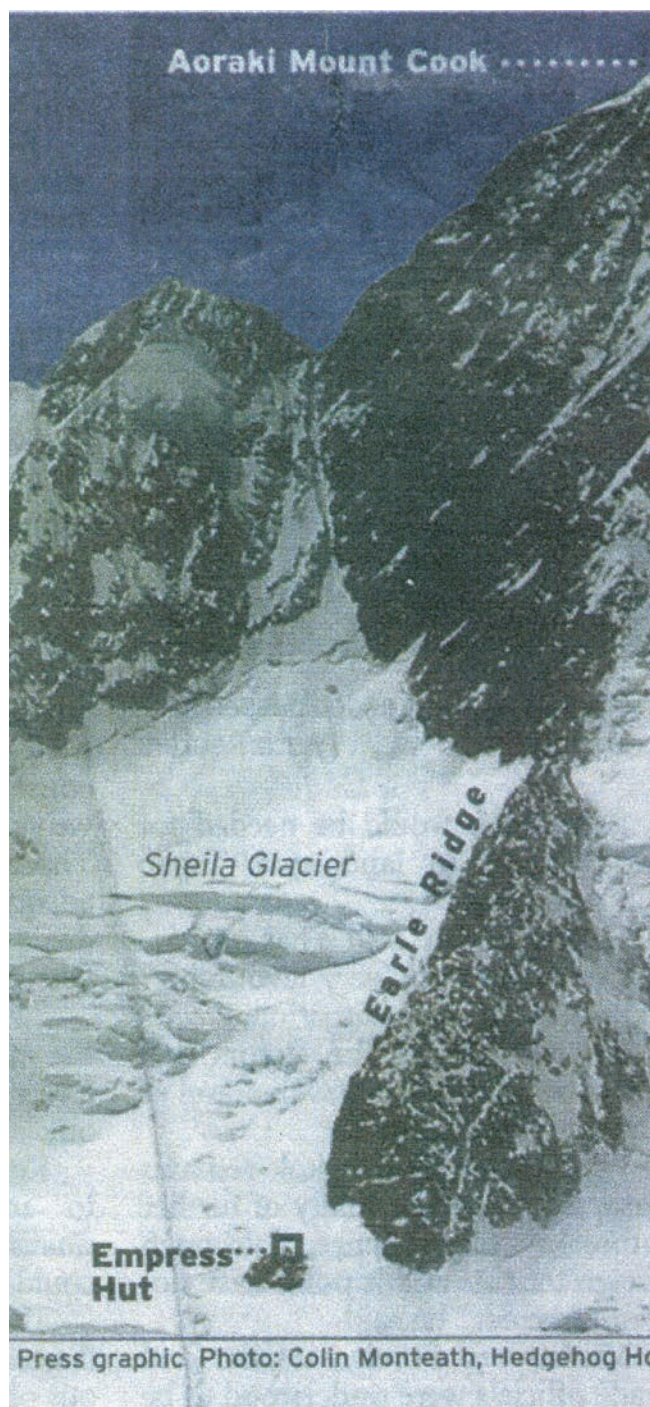


左下にあるのがヘリから投下された救援物資、顔を出しているのが亡くなったA氏、右上はアイゼンなどギア類

が整っている。12月2日に連絡を受けてから、遭難者の所属クラブとしては救助活動への参加要請はないものの、家族に同行して現地に行く必要があり、その準備とマスコミ対応に追われた。現地では新聞の一面トップで遭難が報道された。12月5日早朝、外務省から2人をヘリでピックアップしたが、1名は死亡、1名は凍傷で入院との連絡が入った。12月6日、私は亡くなったA氏の家族と共にクライストチャーチへ向かった。12月8日、A氏の葬儀と火葬を現地で行い、生還したN氏と警察署で記者会見を行った。翌9日にはA氏の遺骨とともに日本に帰国することができた。

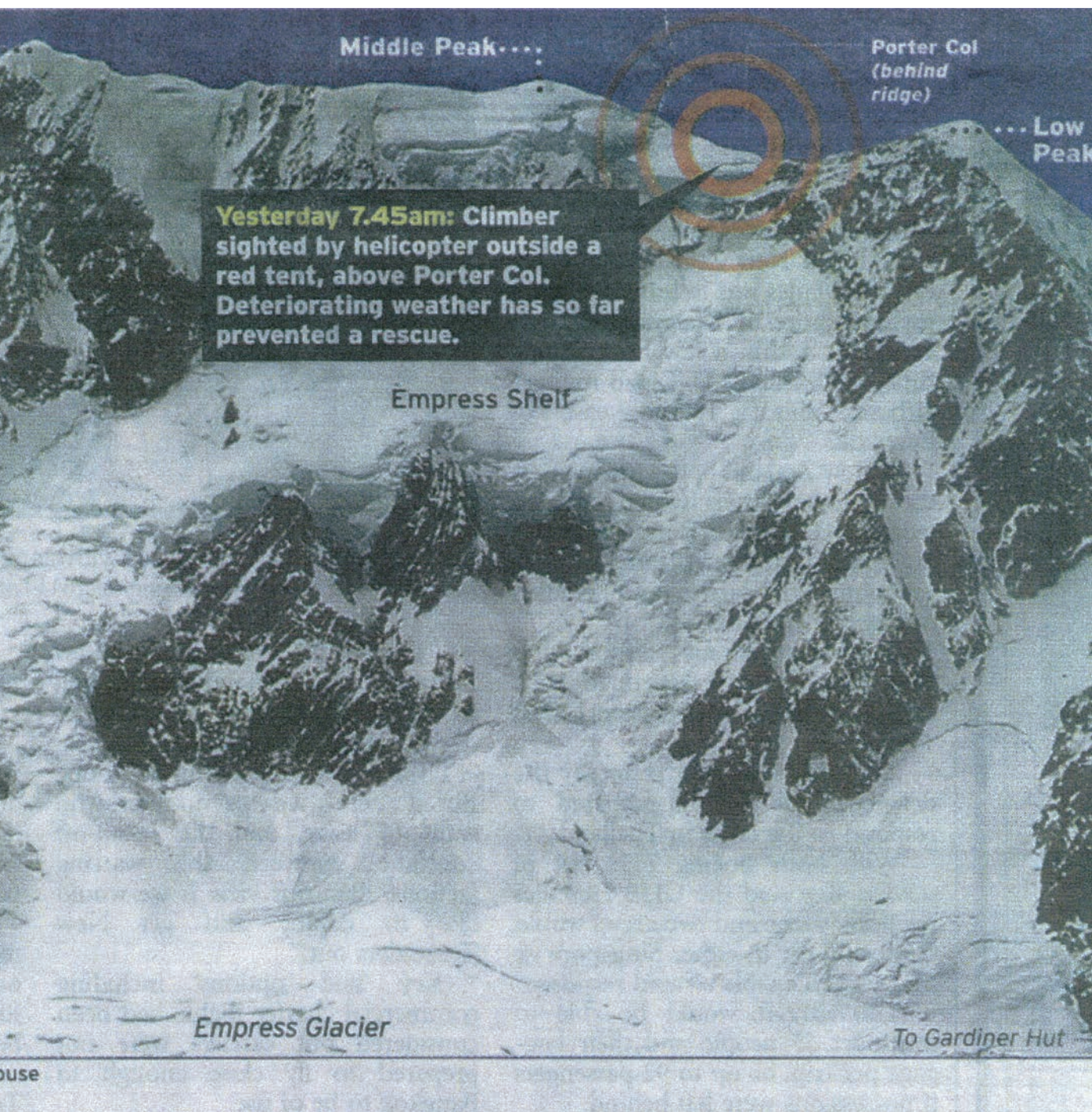
このとき文化の違いを感じるようになったので参考までに記載する。ニュージーランドでは独自の事故補償制度があり、ヘリコプターなどの救助捜索費はもちろん、入院治療費や葬儀・火葬費用まで無料だった。記者会見はオーストラリアから海を越えて取材に来た記者も参加していたが、生還をたたえる内容が多く、亡くなった原因などに言及することはほとんどなかった。ニュージーランド航空は空いているからと遺族をビジネスクラスの席に座らせてくれ、空港では職員が出迎えてくれた。遭難事故を非難するのではなく、山岳登攀者をアスリートとして評価していることをしみじみと感じた。

イタリアのドロミテでも同じようなことを感じた。ドライチンネのチマ・ピッコラ、イエローエッジを登った際、順番待ちや雷雨などがあり、宿泊先のオーロンゾ小屋には深夜の帰還となり夕食の時刻を大幅に過ぎてしまったが、部屋の前には夜食が置いてあった。翌朝、お礼を言うと、食べることができなかった夕食分を翌日の昼食券で用意してくれた。クライミングを良く頑張ったね、という励ましと受け取れ、



うれしく感じた。

労山基金は商業保険と異なり、危険度による交付金額についての差はない。特に海外では、旅行会社主催の安全なトレッキングも8千m峰の未踏ルート登攀も同じ金額が交付される。登山文化を発展させるためには困難で挑戦的な山行も必要で、これに挑む登山者を応援する意味からも、少ない寄付金で大きな交付金額を受けることができるように考えられている。



遭難を伝える現地の新聞記事、連日一面トップだった

1万円(10口)で1年間、死亡・傷害交付金額が最大200万円、救助捜索費が最大400万円まで対応できる民間保険はない。ピオレドールを受賞するようなクライマーが労山会員になる理由でもある。この事故の1年後には南米パタゴニアのフィッツロイで単独登攀者の墜落事故があった。海外山行のために労山会員になって、まだ1か月も経っていなかった。この時は救助ヘリコプターを要請するのに、事前に数百万円

の支払いを要求されたが、救助できるかどうかはわからないとのことだった。所属団体からの依頼で事前に救助費用を振込、何とか遺体の回収はできたが、救助捜索費の300万円(当時)と死亡交付の200万円のほぼ全額を交付した。この事故がきっかけで、海外山行は労山基金に新規加入後1年間経たないと交付されないこととなった(5000m未満のトレッキングなどを除く)。

Steve Long's スティーブの Garden ノースウェールズ庭だより Correspondence

国際部長 大和田英子

第6回



Sluice Box Llyn

有名な詩人キーツの言葉を借りれば、秋は「霧と芳醇な実りの季節」。霧が発生するには晴天が必要で、夜のあいだに気温が逆転し、谷間に露が降りる。ボクたちはこういうのを「インディアン・サマー」と呼んでるんだ。インド亜大陸ではなく、北アメリカで使われるようになった表現なんだけどね。秋は嵐の季節でもあるから、今年のインディアン・サマーは1週間も続かず、嵐が早く、そして激しくやってきた！

今年の夏の始まりは、寒くて雨の多い春のせいで遅かったんだ。その結果、ほとんどの植物は芽吹きが遅れ、芽吹いた植物はナメクジやカタツムリの大群に貪欲に食べられてしまった。温室とポリトンネルの中でさえ、トマトが実をつけ始めたのは8月に入ってからだったから、去年より1カ月も遅くて、ピーマンとナスは9月末になってようやく花が咲き始めたばかりで、うまく実をつけるには遅すぎた。ソフト・



Our jungle garden room

フルーツ（ブルーベリー、ラズベリー、イチゴ）はうまくいったが、果樹は乾燥したせいで若い実をすべて落としてしまった！残念すぎるよ。

野菜と同様、多くの植物の成長が遅れて、ナメクジの被害に遭っている。ダリアやコスモスといった夏の主役たちは、10月が近づくにつれてようやく花を咲かせ始めたところだ。大きな鉢植えなので、10月の避けられない霜から花芽を守るために、すぐに温室に移すつもりなんだけど、ボクが庭の中で一番好きな場所、「ジャングル」エリアは、さまざまな葉の形のおかげで質感にあふれているよ。バナナとカンナは嵐に負けたけど、ありがたいことに、ペルシカリア・アンプレキシカリウスはいつものように長い間、真紅とピンクの花を咲かせてくれた。その下には、愉快的ダイアナ・タスマニカが、輝く青い実をつけている。

ネリネ・ボウデニーは、華やかだが気難しい球根で、夏に条件が整わないと花を咲かせない。それとは対照的に、確実に花を咲かせるのは、イヌラ・フーケリで、太陽の光の下で絵に描いたような鮮やかな花を咲かせ、ミツバチや蝶を惹きつける。

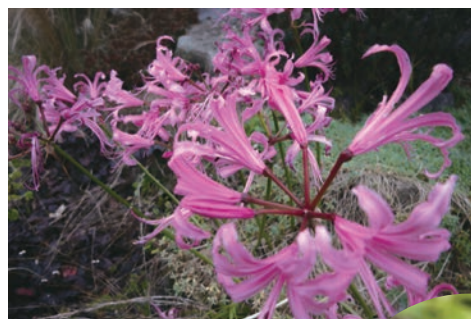
インディアン・サマーはロッククライミングにも一番適した季節だね。鳥の営巣期間の立ち入り禁止制限も終わり、庭仕事は収穫が中心となって、岩場では午後の日差しがそれほど強くない。今年、初めてルートとトボ写真を掲載

したリーン半島のガイドブックが出版されたので、これまで主に脆い岩のせいで怖いと思われていたこのエリアに、かつてない開拓の波が押し寄せている。ガイドブックがこのエリアへの新たな関心を引き起こし、登りやすいグレードのルートが新たに数百本も発見された。気候がずっと穏やかで、地元の若い熱心なクライマーたちが、ノースウェールズはクライミングに適しているという情報を広げてくれたことも大いに役立った。そのようなルートのひとつが、伝説のクライマー、ジョー・ブラウンが拓いた知られざる逸品で、その名も Sluicebox（水門）。ぜひ、写真を楽しんでほしい。

この夏、日本を代表するクライマーたちが何人も命を落としてしまった。大西浩、倉上慶大、そして平出和也と中島健郎。彼らにはもっともっと登っていてほしかった。世界中のクライマーが、心から彼らを悼んでいる。夏の名残りの花束を彼らの魂に捧げる。



Dianella Tasmanica



Nerine Bowdenii



Tortoiseshell Butterfly
and
Inula Hookeri

山の自由帳

谷から稜線へ 復活の道、伊藤新道



湯俣川は荒涼とした景色が印象的な谷です。



荒々しい硫黄尾根を間近に見られるのも素晴らしい。



三俣山荘への最後のトラバース道



土砂に埋まった濁沢キャンプ場。近くではクレーン車が大雨の中ひたすら土砂をかきだしていましたが、永遠に終わらなさそうでした。



初日は湯俣で温泉を楽しみました。今回も軽量化のためクロスオーバードーム。構造上虫の侵入に悩まされるのですが、来年メッシュタイプの『KAYA』が発売されます！



篠塚優 カモシカスポーツ山の店・松本店

道具やウェアに関する
質問はこちらどうぞ⇒



10月頭に、開通して2シーズン目となる伊藤新道を歩いてきました。

伊藤新道は湯俣川沿いを歩く沢のパートと、標高をどんどん稼いでいく山道のパートの2部構成。

沢パートは水俣川と分岐した後、沢靴で河原の歩きやすいところを選んで進みます。第一吊り橋以降は橋も栈道も壊れており、滝はないものの沢登りそのもの。入り組んだ地形ではないので迷うことはありませんが、秋の水量が少ないこの時期でも深い場所で太腿まで浸かるので、難易度は水量に大きく左右されると感じました。

第五吊り橋跡から山道となり、展望台までの間は道が悪く、距離と標高をなかなか稼げませんでした。その先は歩きやすい尾根道になり、美しい森に出迎えられ、トラバース道を進むと登山道と合流します。

独特な景観の谷で且つ歴史を感じる道を歩くことができた充実感に包まれながら三俣山荘の夜カフェで美味しいチャイをいただきました。

3～4日目は縦走を楽しみたかったのですが、結構な雨予報となり、1日短縮して七倉へと下山することに。ブナ立尾根を降りる頃は土砂降りとなり、濁沢が渡れますようにと祈りながら下りました。

7月30日に流されてしまった丸太橋も無事渡れ、ぬかるんだ砂の上を歩いていくと、半分砂に埋まった看板と小屋がありました。看板には利用禁止の文字。こんなに埋まっていれば禁止は当たり前だけど、どこか生々しい感じでした。

下山後、いい山旅だったと余韻に浸る一方、あの埋まったキャンプ場のことが忘れられず、いつ埋まってしまったのかネットで検索するも、キャンプ場の利用禁止の理由は「管理者不在のため」としかでてこず。諦めずに色々な記録を見てわかったのは、今年丸太橋が流出した時の土砂で埋まったこと。

改めて自然の前に人は無力だと感じましたし、自分たちの便利な生活が引き起こしていることの大きさを思い知らされた山行になりました。

こ ちづれ 山さんぽ^o やま

武井真理 カモシカスポーツ

七瀬：2015年6月生

峻：2018年7月生

飛鳥：2021年6月生



二宮駅で「山」ポーズ！皆、保育園のクラスTシャツ着用。どこにいても一目でわかります



ともだちと遊ぶ山

2023年5月末

七瀬7歳11ヶ月（小2）、峻4歳11ヶ月（年中）

※夫と次男は留守番

神奈川県中郡二宮町 吾妻山 136.2 m

参考◎樋口一郎『半日の山ハイク 丹沢、箱根足柄、三浦湘南、北相模、横浜川崎』（東京新聞）、二宮町観光協会『にのみく吾妻山公園案内図』（←最寄駅のJR二宮駅にて配布）

行程◎9:30 JR二宮駅～9:40 吾妻山登山口 役場口～10:15 から10時半頃、山頂直下の遊具に順次到着～（しばらくあそぶ）～11:15 吾妻山山頂（昼食休憩）～12:30 梅沢口へ下山～13:00 梅沢海岸



山頂直下の大型遊具、長いローラー滑り台もあります



開放感あふれる山頂でお弁当



梅沢海岸で、寄せては返す波に大盛り上がり！

こどもが1番張り切って歩くとき、それは友達と一緒にのときかもしれません。

こどもの保育園仲間の親子総勢17名(!)で、吾妻山にでかけました。

小学2年5名、年中（4～5歳）3名、年少（3～4歳）1名、そしてその父母—保育園卒園後も、小学校も同じなので、いまだによく遊んでいる仲間達。中には0歳からのつきあいの子も。たまたま近所にこういう仲間が得られたことは、とてもラッキーでした。

吾妻山は以前、七瀬&峻がもう少し小さい頃にも訪れた山。登山口が駅から近く、30分もあれば山頂に出ます。途中には大型遊具もあり、山頂は、海が望める芝生！

スニーカーで気楽に歩ける山なので、皆を誘ってみたところ、企画に乗ってくれました。

1時間程の電車移動を経て、二宮駅へ。駅前のコンビニで食料買い足し等してから入山。

登山口からは、しばし急階段。こどもたちは軽快に駆け上がります。人数が多いので、どうしても歩く速さに差がでます。小2&年中集団

は友達と一緒にということで盛り上がり、飽きる暇もなく、駆けるようにしてあっという間に、先へ先へ進みます。最年少の子は両親の肩車(!)で1番後ろからゆっくりやってきました。

小2と年中—3歳差ですが、この位の年齢の3歳差となれば、下の子らの体力もつき、皆、兄姉にがんばってついていきます。

庭園ふうの新緑の中の道を抜けると、おまねかねの遊具広場！鬼ごっこ等も展開され、自分の家族だけで行くときにはない楽しさが生まれます。（父達がワルモノ役になって盛り上げてくれます）

山の上でひとしきり遊んだあと、海でも遊んで帰れるのが、吾妻山の良さ。山頂の芝生でお弁当を食べた後は、梅沢口へ下山。急な下りで、おとなは「膝がガクガク」等と言っているそばで、こどもたちは走ってしまう。「転ぶよ！」「走らないで！」と声かけつつ、梅沢海岸へ出ます。

梅沢海岸では、寄せては返す波に大盛り上がり。何をするにも大騒ぎです。

しばらく遊んでから帰路につきました。

すみっぴ

その7 村松 孝一



編集後記

ハイキング交流集会の資料で、これまでの全国ハイキング交流集会・学校の一覧表を整備した。全部で40回あったが、私はそのうち1988年以降の35回に全部参加し、うち33回は主催者側だった。今回で34回目。さて、いつまで続くやら？ (石川友好)

夏から秋にかけて全国連盟の諸活動が活発に繰り上げられた関係で、今号はイベント報告記事が多くなった。報告記事は硬い内容で文字スペースで占められる傾向にあるので、「一押し紅葉」と「野生鳥獣の目撃情報」の写真を掲載してバランスをとった。本当はもっと多くの写真を掲載したかったのだが、残念ながら協力をお願いして寄稿されたもののしか掲載できなかった。私たちは沢山の山に入っているのだから、ライチョウに限らず色々な鳥獣を見る機会が多いだろう。また、目撃情報第2弾を実施したいと思っている。 (今野善伸)

ある日ふと自分が山を始めた高校生時代の写真を見たくなり、必死に探すがない。確か17年前に「岳人誌」に掲載されたはず。友人の力を借りてAmazonで購入。学生帽でザックを背負った秋の山の写真、ありました。教えてくれる先輩もなく、「勤労者登山教室」伊藤正一著という文庫本で独学した。今は過剰な情報化時代。考える登山者になってほしい。 (田上千俊)

登山時報

©禁無断転載

2024年秋号 No.585 2024年10月25日発行

編集・発行責任者 川嶋高志

編集 安東仁志、石川昌、石川友好、白井邦徳
宇田川道恵、浦添嘉徳、久保典子、小池藍
今野善伸、田上千俊、武笠真次、水田哲生
山本尚徳

発行 日本勤労者山岳連盟

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24
TEL 03-3260-6331 メール jwaf@jwaf.jp

印刷 有限会社 カウズ

DTP・デザイン 来住真太



「見つける」

山岳搜索サービス「ココヘリ」



山に行くと出かけたまま帰宅せず...

警察の搜索3日目の朝、警察からの会員照会があり、ココヘリ会員様であることが判明。

通報日の午後、ヘリで発見し300mまで絞り込み、翌朝ドローンチームが警察に同行し接触。藪が生い茂り、かつ登山道からも離れていたため、ココヘリがなければ発見は難しかった事案。

ココヘリがあったからこそ早期発見につながりました。

その他、搜索事案はこちら▶



ココヘリ会員は、労山基金の搜索・救助費用が
最大 **掛け金の1000倍に**



詳しくはこちら



日本勤労者山岳連盟

労山事務局
からのご案内

労山で推奨している山岳搜索サービス「ココヘリ」。

ココヘリスタッフによる、「ココヘリの説明会」を実施していただきます。

この機会にココヘリの仕組みや搜索事例等を知って労山基金と併せて備えてください。

説明会は下記方法で各山岳会でココヘリへ依頼してください。

日本勤労者山岳連盟理事長 川嶋高志

依頼方法

右記QRコード、または omine@authjapan.com へ
山岳会名・ご担当者名・ご連絡先 を記載してメールにて依頼





大事なものを、 揃っています。

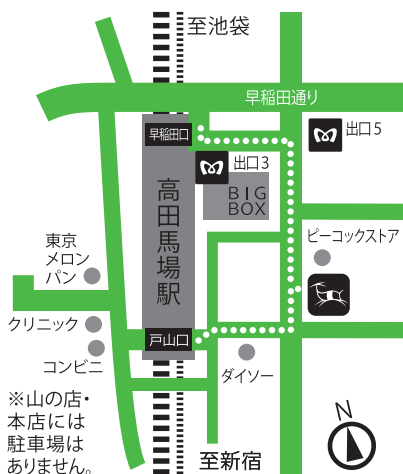
「登山用品専門店」だからこそ
出来る品揃えと接客サービスで
安全快適な山行をサポート。



カモシカ 通販

オンラインショップ24hrオープン! / こだわりアイテムと充実の品ぞろえをネットから!

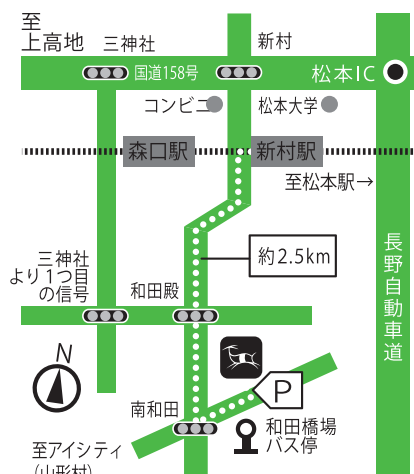
山の店・本店 JR高田馬場駅から徒歩3分



山の店・横浜店 JR横浜駅東口から徒歩5分



山の店・松本店 松本ICから約6km



登山用品専門店 カモシカスポーツ

本店・横浜店 OPEN 11:00 CLOSE 19:30(月～金)/19:00(土日祝) 松本店 OPEN 10:30 CLOSE 19:00

- 山の店・本店 TEL 03-3232-1121 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-28-6・2F
- 山の店・横浜店 TEL 045-440-0711 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-6-32横浜東口・ウィスパビル1F
- 山の店・松本店 TEL 0263-48-2424 〒390-1242 長野県松本市和田4478-1